

工業蒲田

所 行 所 10番地
 都 大 区 東 蒲 田 3丁 目
 京 大 (731) 2052 2910 3180
 電 話 蒲 田 工 業 協 同 組 合
 蒲 田 編 輯 及 発 行 人 員 会
 機 関 紙 編 輯 部 委 員 会
 永 印 刷 所 幸 路 9番地
 東 京 都 中 央 区 新 富 町 2丁 目
 株 式 会 社 栄 輝 堂 印 刷 所

暑中御見舞申上ます

蒲田工業協同組合

理事長 石森憲四郎



酷暑の候となりましたが、組合しつつ、まことに順調な伸展を続け感謝申上りますと共に、御同慶員皆様方におかせられましては、けて参っておりまして、この間にの至りと存じます。

本組合も創立以来十有余年、地域協同組合としての特殊性を發揮ひ申上ります。



る中小企業への敬寄せ、或いはこ数年來の若年労働者の求人難等々、中小企業に暗い影を投げかけているものと言えましよう。

この中であつて、中小企業基本法が国会で審議されつつあることは、(一)の機関紙が發刊される頃には既に衆参両院を通過していることと思われましよう、まことに朗報と言えましようが、これとて望んでおりましたものとは大きな開きがあることは既に皆様方がよく御存知の通りであります、殊に生産分野の確定の不明確や官公需の確保割合の不明確など、今後尚一層團結を固めてこの法の改正に、或いは関連法規の制定に努力を傾注して行かなければならぬと思つております。

しかし、われわれ中小企業界におきましても、この未曽有の變革期に対処し、自己企業の體質改善と近代化に全力を注ぎ、自由化の風も、禍をもつて福となす氣概と努力を惜しむことなく、経済的にも果たまた思想的にも、我國の安定勢力たる中小企業の現在の役割をよく自覚し、わが國産業の伸張に、また國家將來の安泰のために奮起しなければならぬと思つております。

かかる情勢下にあつて、本組合の果さなければならぬ使命は実に大きき、役員各位の御尽力と組合員各位の御支援御鞭撻を得まして、金融問題、税制問題、労働問題等は言つて及ばず、各般に亘つて、その一つ一つについてその使命達成にたゆまない努力を積み重ねて、皆様方の御負託にお応え申上げると共に、組合自体もまた、新しい時勢に即応し伸張を図つて行かなければならぬと存じている次第です。また、多年の懸案と

「海の家」を御利用下さい

蒲田工業協同組合

皆さま方から再三に亘る御要望のありました本組合事務所建設につきましては、去る五月二十八日開催の第十四回通常総会で御決定されました如く、現在地に建設のごことになりましたので、なにか悪しからず御諒承下さいまして、御協力賜りますようお願い申し上げます。

私事に亘つて甚だ恐縮ですが、私昨年未より約半年に亘つて宿痾のため入院しておりました、役割のため入院しておりました、役

員各位はじめ組合員皆様方、なにかと御迷惑をおかけましたことをこの紙上を借りて深くお詫ひ申上げますと共に、幸に全快に近い程度になりましたので、この半年の空白を取戻すべく最善の努力を払う所存でございますので、倍旧の御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後にあたりまして、組合員各位の益々の御発展と御健勝を衷心より祈念申上げまして、暑中御見舞の挨拶といたします。

暑中御見舞申上ます

蒲田工業協同組合

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|------|-------|------|------|------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|------|--|
| 顧問 | 太田義雄 | 野口忠爾 | 武山秀夫 | 石森憲四郎 | 川瀬春近 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | |
| 理事 | 石森憲四郎 | 川瀬春近 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | | | | | | |
| 常任理事 | 新海 | 永森忠衛 | 村岡静夫 | 安藤七郎 | 神田藤出 | 佐藤勇蔵 | 大谷勇 | 西野藤三 | 竹中榮一郎 | 小野藤三 | 松島謙一 | 秋山一之 | 岡上政 | 井上政 | 渡辺直 | 黒川正 | 矢野政 | 蛭田政 | 戸上政 | 豊間政 | 水谷満安 | </ | | | | | |

消費者物価の上昇と日本経済

豊かなるが故に物価は上る？

中西重思

物価、特に消費者物価の値上りが上っている」というのが、現実者、中小企業勤労者の労働力不足が大きな関心事となってきた。の姿であるが、それにしても、わだいたいの「資本主義国家ではが国のその上り方は近代国家の中豊かなるが故に物価が上り、共産では特に大きい。園諸国家では貧困なるが故に物価

消費者物価上昇の

八〇%は食料品とサービス料金

昨昭和三十七年の全都市消費者物価指数は六・七と、二十八年に比べて何故このように消費者物価が上ったかをみると、消費者物価の八・〇%上昇に次ぐ大幅な上昇は、食料品関係が五・八%、サービス料金、公共料金が五・八%、その動きは昭和三十八年度に入っても、四、五、六月といわゆる難費が三六%で、この二つで全体の八二%を占めていると言わねばならない。

消費者物価上昇の原因

サービス料金、公共料金の値上りの原因は、後段でみるように世界的傾向のものであるが、特にわが国においては、異常な消費者物価の上昇が高度成長政策の落とし子ともいえる節のあることが注目される。

高度成長政策とは、ハンセン博士の高度成長論に源を発するものであるが、その考え方をわかり易く言えば、①貯蓄より消費、②輸出より国内需要、といった考え方に立脚するもので、資源乏しく貿易立国といわれるわが国におい

が何であるかを示している。また、こうした背景において、環境衛生法の適用、あるいはその便乗、悪用による理髮代、クリーニング代等の値上げを招いた。一方、こうして生れた所得倍増は〇・四%下落、三十四年一・八%、三十五年三・八%の上昇だつたのが、三十五年七月池田内閣が発足、高度成長政策の実施ともなつて、一段と消費者物価を上昇せしめるという結果になった。

消費者物価引下げへの努力

低金利政策と物価

こうして消費者物価の上昇はつづいてきたが、さらに注目されるのは、過去二ケ年米の不況の中に特に卸売物価の下落傾向の中に、消費者物価が高騰をつづけたことが特徴的であるが、こうした時に政府が昨年後半から低金利政策を進められていることも問題がある。池田内閣は、昨年九月から強力な金融緩和の政策を、景気回復の施策および自由化に処する基礎固めとして推進しているが、低金利金融緩和は一見物価引下げに役立たずか見えるが、よくみると、これは物価上昇に拍車をかける危険が多い。すなわち、消費者物価の上昇は労働事情は悪化し、特に若年労働者組の立場の強くなつて日本で

主要国家とともに

消費者物価は上昇するが

きて、以上のような背景、原因によつて、急上昇をつづける消費者物価であるが、消費者物価の上昇の動きは、単に日本だけのものではなく、世界的なものである。すなわち、昨昭和三十七年の各主要国家の上昇は、アメリカ一・九%、イギリス、西ドイツ三・九%、フランス四・三%、イタリア四・七%と上昇しているが注目されている。

消費者物価引下げのために

さて、それではこれからの日本品の値上げ抑制についても検討され、流通機構の問題にも検討、指示が与えられようとしている。しかし、これらの物価抑制策は必ずしも後述の如く障害を伴うものではない。まず、政府のこれに対する動きをみてみる。五月十五日に消費者物価対策連絡協議会を開き、この問題を協議した。一、砂糖、肉類の値上りについては、砂糖の輸入関税を引下げ、肉類を緊急に輸入する。二、クリーニング代、理髮代など料金の抑制については、二つの協定を設け、生産性の向上を図り、また、悪質な協定値段を取締る。三、都市ガス、放送料などは値下を決定し、以降具體策を検討、一部実施しようとしている。さらに、これより先、生鮮食料のことは極めてむづかしい。そして、政府の行っている食料品、サービス料金、許可料金抑制策は値下げの施策も、上昇を

アウルプロパンと重油

一般家庭用
業務用
増設工事
新設工事



リン油
灯油
軽油
白油
機械油
その他

亜細亜石油特約店

株式会社 朝日商会

横浜市鶴見区市場町1768

TEL (50) 1325~7

●明電家庭電気品

- 明電 冷蔵庫
- 明電 洗濯機
- 明電 自動電気釜
- 明電 クリーナー
- 63年型 扇風機

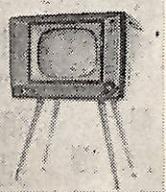
只今長期分割払で特売中
お問合せは組合又は東交へ

力が強く寿命が長い
モートルの決定版!

明電モートル

閉鎖防滴型 全閉外扇型
密封ボールベアリング付

新発売 明電テレビ



MEW 明電舎

明電舎代理店

東交通商株式会社

京浜地区サービスセンター
東京都大田区入新井3~52 電話 (761) 1323



で、自由化はあちらさんが恐れていないのではなかつたかと思つていゝるというふうな格好です。

司 会 品物が良ければ自由化は恐くないという事ですね。
Gさんのところは如何ですか。

G 船用の電機器については自由化の影響はないと思つています。
溶接機の方は、自動車用エンジンを原動力として居る関係上、しかもこのエンジンが製品価格の二分の一を占めておられますので、ドイツから安いエンジンが入つてきた場合を考慮しますと、もっと良質小型を心掛けると共に、エンジンの中も随分変わつてくるのではないかと思つています。

B エンジンメーカーが安くしてくれば良いが、なかなか安くしてくれませんしね。

A 自動車でも、ディーゼルやプロパンが多くなるのではないかと思つています。

B ディーゼルとかプロパンとか言つて居る間に、ロータリーエンジンになるのではないかと思つています。

司 会 もう十年もたてば、世の中も随分変わつてくるのではないかと思つています。

見に行こう東南アジアへ

司 会 Hさんの方は？

H 私のところでは消火器を作つて居るのですが、外国品の進出を考へられませんが、こちらの製品を輸出するまでには至つていません。引合ひはあるのですが、軌道になかなかありません。それで、今回、大田区産業会館出品者協賛会、大田区産業会館出品者協賛会、東南アジアの視察団を作ることになつて居りますので、これに参加して様子を見に行つてきたいと思つておられます。

私のところでは、国家検定品の種類を随分持つて居りますが、どれもこれもやるといふことは、却つて品質の向上が遅れますので、数社が技術提携して、それぞれ特許や特許のものを持つて居りますので、各社が最も得意とするものを作つて居ります。これからの時代は特徴のあるものをうまく生かしてやつていかなければ、うまく行かないのではないかと思つています。

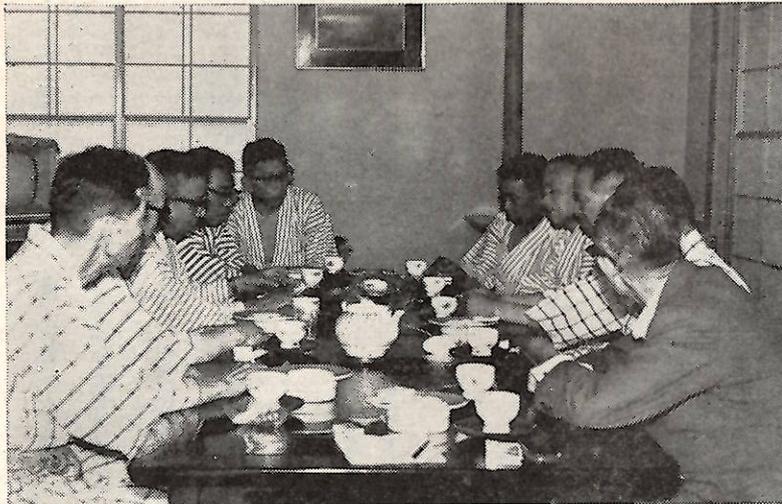
司 会 いまH氏から東南アジ

税金半減運動

司 会 中小企業基本法が議會中政連に關係あられるKさん、簡を通過したホヤホヤなんです、単に……。

K 中政連では、皆さんよく御存知の中基法の政府案に対して六項目、即ち、①格差解消と不平等の是正、②階層別施策を明確に、③完公需の七割確保、④公正委員会の設置、⑤中小企業経済会議の設置、⑥国の重要な各種の審議会・調査会に必ず中小企業代表を加えること、の改正点を挙げ、政府並びに各党に迫り、運動並びに力を加えて参つたのですが、その要求通りとは参りませんが、各項

目、即ち、①格差解消と不平等の是正、②階層別施策を明確に、③完公需の七割確保、④公正委員会の設置、⑤中小企業経済会議の設置、⑥国の重要な各種の審議会・調査会に必ず中小企業代表を加えること、の改正点を挙げ、政府並びに各党に迫り、運動並びに力を加えて参つたのですが、その要求通りとは参りませんが、各項



効力のない法では仕方がありません。下請法では六〇日を超えた場合は利息を支払ふと書いてありましたが、実際に利息をくれるところはありません。また、そんなことを要求したら、その次から仕事が貰えません。

A 大企業から買つたときは利息を支払われ、こちらが売るときは知らぬ顔ですね。

L 農業には農業基本法があつて、表が採れなければ政府がこれを保証しているが、われわれ中小企業に一体なにが保証されているかと言いたい。

B 国家保護法で、農民一人当たり一万五千円で居るが、中小企業には五百円しかありません。如何に中小企業がひどい扱いを受けて居るかが判ります。

中小企業の親父さんは、一國一城の主だといつたらならない考え方があつて、頭が良いのですが、バラバラで団結がありません。民主政治の時代にはこれが一番駄目だと思つています。

A 下請工場が協同組合を作つても、スキあらは自分のところへ仕事を持つて行つてしまつたことでは駄目です。向うが百円でやるなら私のところでは九五円でやりましようといふようなことで自ら値段を下げて居るようなことでは到底団結はできません。

B その点、羽田の海苔業者は団結が強、国会へ押しかけて行き、坐り込み戦術もやつたりして保証金をワンと出さしています。民主政治は団結して強力で押さなくては、バラバラではなになつてきませんよ。

A なにか強力な旗印をかかげて、その旗印のもとに集るようになければ……。

司 会 そつてです。むつかしい

重油・機械油 切削油・ウエス

組合へ御注文下さい
蒲田工業協同組合

たします。殊に皆さんは中小企業の指導者であられるので、何故税金が半減できるかといふことがパンフレットに印刷したものがございますので、是非ともお読みください。

司 会 いろいろ貴重な御意見を拜聴し、ありがとうございます。

実は、中小企業の求人問題等も組上にのせたいと思つて居たのですが、紙面に限りもございませんので、本日はこの辺で、この座談会を打ち切りたいと思つています。御協力の程、厚く感謝申し上げます。

トップクラスはトップクラスのホテル旅館へ!!

クラブ会員は(会員証)で各観光地や都内一流ホテル、レストランで宿泊料、飲食代を会計書にサインするだけで掛勘定となる。

…… 御信用を裏付けする ……

日本ダイヤモンドクラブ

(別名 日本ゼントルマンクラブ)

蒲田工業協同組合事務局へ御照会下さい。規則書呈上

日本ダイヤモンドクラブ事務局(八洲観光内)

港区新橋3の2 TEL(571) 2325, 1756, 4659番

塗料一般・塗装機器・接着剤

タナベラッカー

岩田の エアコンプレッサー
スプレーガン

パッキン剤の最高峰

スリーボンド

昭

株式会社 昭和塗料商会

東京都大田区東蒲田3-44番地

電話 東京(738)代表 1151~5番

退職金共済制度

掛け金の決め方



相談室

問 中小企業退職金共済制度に加入しようと思うのですが、掛け金の月額は一般にどの程度となつてい

るでしょうか。

答 掛け金の決め方ですが、その額は従業員一人当り一カ月最低二〇〇円から最高一、〇〇〇円まで、その間を一〇〇円刻みに決めることになっております。そしてその額は各従業員ごとに決めることになっておりますから、各従業員の賃金・年令、勤続年数等の諸要素を考慮して、事業主が最も適当であると考える金額を選択します。掛け金月額については、いろいろの考え方がありますが、いままずその企業の退職金水準(勤続年数別退職金)を設定し、これに只合つような掛け金を決める方法が良いとされています。一般には大体賃金の四〇程度を基準として

勤続年数で決める例が多いようです。

また、掛け月額は契約の成立しなあとに、途中で一〇〇円刻みの範囲内で増減することは自由になります。ただし、減額の場合は事業主が掛金を納付することがい

ちじるしく困難であると都道府県知事が認めるときに限られ許されて

税 務

七月の 税務

▽所得税第一期分の納税

▽所得税予定申告

▽固定資産税(都市計画税)第二期分の納税

八月の 税務

▽個人事業税第一期分の納税

▽個人住民税第二期分の納税



組合員だより

新加入組 会員紹介 左記の方が新しく加入されましたので御紹介申上ります。

▽久佐野精機工業株式会社(大田区東六郷一ノ三七)代表者久佐野朝晴氏、電話(七三三)六〇五八七八六二

▽株式会社東京ハイモ二電機製作所(大田区上漕上二一三七)代表者藤原栄氏、電話(三五五)三二五六(代)

事務所 移 転

ことばの泉



その「はな」です。本当は「纏頭(はな)」と書くのが正しいのだと、翌日それをお客の邸に持って行くとき、お金や物をくれるという

は

な

客が舞台にいらしたとき、役者がうまい役者に対して花を投げたので、その後、芝居が大衆のものになり、花を鼻紙で代用するようになります。

「纏頭(はな)」と書くのは、投げられた花を髪のアクセサリーにするのが一般的だったからだと

タイプ印書

迅速・親切
蒲田工業協同組合

労働安全保護具

今日も安全 笑って職場に
安全保護具を御使用下さい

佐藤製作所

本社 品川区大井海岸町2587
電話 (761) 0825. 6375
営業所 川崎市戸平町2-74
電話 (3) 3136

東京都天幕雨覆工業組合連合会 推奨店
東京都品川区五反田 3~72
TEL (491) 7 0 0 6
工場 東京都大田区東蒲田 二ノ十七
TEL (731) 2 5 4 4
(732) 1 3 2 5

河原テント株式会社
東京都大田区東蒲田 2~11
第一京浜国道京浜蒲田駅隣
電話蒲田(03)5911. 9750. 3945

作業服・職場服

職場に合った作業服を選んで下さい
(771) 3945へ
御一報次第豊富な見本持参々上
倉レビニロン作業服 東洋紡績株式会社 特約店
倉敷紡績株式会社
蒲田工業協同組合指定
新井産業有限会社
東京(771) 3945・埼玉(0855) 2686

石炭 コークス 卸小売
ウエス 布手袋
有限会社 降旗商店
東京都大田区西六郷 1丁目38番地
電話 蒲田 (731) 5733番



左記の図書が新しく参りましたのでお知らせします。お気組員皆さんの図書です。お気軽に御覧下さい。貸出しも行っておりますので、御遠慮なくお申出下さい。

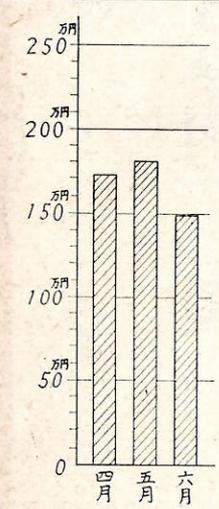
記

- 労働協約の手引
- 東京都中小企業改善成果記録書
- 貸金通信(最近の国内、海外出張旅費の実態、宿泊料、日当、支度金、交通費、等級等、並びに夏季手当要求交渉状況、その他)
- 中小企業新報(通産省の輸出振興税制の構想、輸出振興税制案、社会党の市場支配的事業者の経済力濫用の防止に関する法律案要綱並びに案、その他)
- 中小企業と労働問題(小規模企業ほど求人難、合理的な賃上げを、その他)
- 中小企業だより(中小企業の福利厚生施設の方、その他)
- 東協連会報(相互扶助と社会的性格、中小企業の共同化、その他)

業務報告

六月商業手形割引取扱高 二二、六二二、七一五円
 六月共同購入業務取扱高 一、四九六、〇五七円
 六月四日 評定委員会 盆資金融資申込について評定委員会を開催

- 六月四日 常任理事会
 - ①会館建設の件 現事務所敷地内に建設設計図面作成をすすめることに決定。
 - ②青年部設置の件 設立までの世話役は理事長名をもって行うことに決定
 - ③海の家設置の件 川瀬副理事長と相談の上決定することになった。
 - ④夏季手当の件 常任理事会に一任するよう理事会に諮ることに決定
 - ⑤理事会開催日時決定の件 六月十三日午後一時に開催することに決定
 - ⑥六月五日 改正賦課金について協方方要請
 - ⑦六月十三日 理事会
 - ⑧新加入申込組合員承認の件 久佐野精機工業株式会社加入を承認可決
 - ⑨蒲田工業協同組合青年部設置の件 設置することに決定、理事の中から数名(理事長に指名二任)を世話人とし、具体案を作成した上、理事会の承認を得ることに決定。
 - ⑩海の家設置の件 具体案について、理事長副理事長に一任することに決定
 - ⑪機関紙編輯に関する件 七月号は暑中見舞特別号として増頁し、編輯委員による放談会を六月下旬に開催、紙面を飾ることに決定、具体的なことについては永森編輯委員長に一任することに決定
 - ⑫青少年動向調査に関する件 中卒青少年の非行化が目立ってきたので、文部省が家庭裁判所を通じて働中卒青少年の動向調査を行うことになったので、組合にその協力を求めたが、本組合としてはこれに協力することに決定



- ⑬京浜機械木型工業協同組合より要請の件 京浜機械木型工業協同組合の組合員工場の従業員渡部君が、今回イングリッドのダブリン市で開催される第十二回国際技能五輪大会に木型部門の日本代表として参加することになったが、何分にも本人はもとより、その事業場も従業員三名という細企業なので、その派遣費の燃出に困難を来したので、同組合からその費用の一部を贈方について要請があったので、本組合としては三万円寄贈することに決定。
- ⑭新卒卒者求人懇談会開催の件 開催することに決定、事務局にて立券実施することになった。
- ⑮職員夏季手当の件 常任理事会に一任することになった。
- ⑯中小企業団体全国大会参加の件 中小企業団体全国大会が来る七月十日北海道の札幌市で開催されるが、本組合から七名参加することになり、参加費の一部として十万円を支出することに決定。六月十四日 機関紙「工業蒲田」暑中見舞特別号(七月号)連名広告掲載方依頼について発送 六月十五日 商手割引調査書発送 六月十七日 機関紙六月号発行 六月十九日 中小企業基本法要求貫徹制定について団体に陳情並びに要請 六月二十一日 新卒卒者求人懇談会開催について通知 労働基準法並びに結核予防法に基づく健康診断、腸チフス・パラチフス予防注実施について通知 六月二十七日 編輯委員座談会 六月二十八日 「勤労青少年の集い」について通知

学校新聞 組合協会会報

校友会雑誌
卒業記念アルバム
(新聞印刷の手引郵呈)

株式会社 **栄輝堂印刷所**

東京都江東区深川新大橋2の5
電話東京(63) 3947・3948

御集会にお祝いに御法要にせむ鳥七の幕の内弁当折詰の御利用を

鳥七

営業所宅
 (731)
 (738)
 (738)

コ920
 コ998
 コ901
 ス063

東京都公認 各種ウエス製造

= 蒲田工業協同組合指定品 =
多少に不拘御用命下さい

渡貢商店

東京都渋谷区本町2の26
電話 (361) 6551

割烹 美し

仲浦田二ノ二〇(京浜線踏切前)
電話蒲田(73) 三四四〇
三四四〇
七三七四

暑中御見舞申し上げます

フランス料理

グ リ ル 双 葉

大田区本蒲田 3~16
電話 蒲田(731) 2451

暑中御見舞申上げます

蒲田工業協同組合員有志
(五十音順)

株式会社 旭川製作所
 亜細亜バルブ株式会社
 株式会社 東電機製作所
 有明工業株式会社
 株式会社 安藤鉄工所
 岩佐工機株式会社
 合資会社 内田製作所
 株式会社 太田鉄工所
 株式会社 大谷造機所
 合資会社 大津鉄工所
 大野化学機械株式会社
 岡田鋳金株式会社
 岡本工業株式会社
 株式会社 加藤製作所
 加藤電線株式会社
 株式会社 蒲田工場
 株式会社 蒲田鑄造所
 株式会社 川端工作所

神田産業株式会社
 株式会社 気球製作所
 株式会社 清川製作所
 有限会社 京浜鑄造所
 小出鉄工所
 光和産業株式会社
 株式会社 小長井製作所
 小村管工事株式会社
 小村工業株式会社
 株式会社 コロナ電業社
 株式会社 近藤製作所
 株式会社 里吉製作所
 株式会社 清水鉄工所
 株式会社 昭和重機製作所
 昭和精密工業株式会社
 城南木工株式会社
 株式会社 新海製作所
 鈴和鉄工株式会社

関屋窯炉工業合資会社
 太産工業株式会社
 株式会社 太陽製作所
 合名会社 竹中機械工具製作所
 中外ピストン株式会社
 株式会社 辻村鑄工所
 T・Vバルブ株式会社
 株式会社 寺岡精工所
 株式会社 藤栄製作所
 東京瓦斯電炉株式会社
 東京軽電機株式会社
 株式会社 東京精密器具製作所
 株式会社 東京長塚鍛工所
 株式会社 東電舎
 東洋防錆工業株式会社
 株式会社 中谷機械製作所
 株式会社 中山電機工芸社
 永森電機株式会社
 合資会社 西野機械工業所
 株式会社 日鍛製作所
 日本エレクトロニクス株式会社
 日本樹脂工業株式会社

日本中空鋼株式会社
 日本メラミン株式会社
 羽田醸造有限会社
 株式会社 羽田パイプ製造所
 株式会社 原田鍛工所
 株式会社 蛭田電機製作所
 深尾電線製造株式会社
 株式会社 福田製作所
 藤田工業株式会社
 合資会社 藤原製作所
 有限会社 文化精工
 株式会社 牧野硝子製造所
 松久^{ナシヨナル}_{シヤッタ}有限公司
 三津浜興業株式会社
 宮永化学工業株式会社
 武蔵塗装工業株式会社
 有限会社 武藤鉄工所
 恵工業株式会社
 メグロ鍛造株式会社
 株式会社 山本金属研究所
 株式会社 山本電機製作所
 合資会社 六郷鍛工所